

[た よ り]

長野県支部だより

相澤孝夫

1 支部の概況

長野県は47都道府県中、第4位の広大な面積を有するばかりでなく、北・中央・南アルプスに囲まれたわが国有数の山岳地帯に位置している。この地勢のため長野県は北信、中信、南信、東信の四つのエリア（三次医療圏）に分かれている。

平成15年9月の調査では、透析施設としては北信18、中信19、南信20、東信13の合計70の施設があり、透析装置は北信437、中信392、南信429、東信290の計1,549台がある。これは私が長野県透析医会の事務局担当理事となった平成7年に比べると施設数は約1.2倍、透析台数は約1.6倍となっている。透析医会入会施設は平成7年9月時点では44施設であったが、平成15年9月の時点では59施設となっている。これは県全体施設数の84.3%であり、透析医会参加施設の透析台数の合計は県全体の透析台数の91.7%を占めている。透析医会参加施設は北信16、中信17、

南信16、東信10であり、県内の各エリアから偏ることなく参加いただいている。

長野県透析医会は地理的状況や参加施設の状況などにより、運営においては1エリアに偏ることなく全体のバランスを保つことを常に心がけている。このため医会の理事も四つのエリアから均等に総会において選出していただき、年1回行われる総会において役員選出を行っている。現在の理事・役員は表1の如くである。

2 委員会活動

医会には三つの委員会があり活発に活動している。

保険委員会は、平成6年までは血液浄化療法標準化委員会として活動していたが、時代の流れから透析療法の診療報酬請求における様々な問題を請求事務担当の事務職員を中心として検討していこうとする委員会として平成7年より組織された。現在この委員会は委員長岡田洋一、副委員長神應裕以下6名の委員から構成されている。平成10年からはこの委員会と連携して活動する組織として長野県透析事務連絡協議会を発足させている。この協議会は年3回の役員会と年1回の総会を開催し、透析における保険請求上の問題点につき継続的な学習を行っている。

企画委員会は、今年度から設置された委員会であり、委員長岡田洋一、副委員長笠原寛以下5名の委員にて運営されている。透析に関する各種講演会や勉強会の企画や調整を長野県透析研究会と連携して行う委員会であり、今後の活動が期待される。

表1 長野県透析医会理事・役員

名誉会長	土屋 隆
会長	相澤孝夫
副会長	小口寿夫・岡田洋一
企画担当理事	神應 裕
庶務担当理事	鈴木都美雄
理事	水上哲太郎、徳永真一、長沢正樹、松下雅博、西尾康英、洞 和彦、山口 博、笠原 寛、吉沢晋一、城田俊英、油井 弘、熊谷悦子、床尾満寿雄、北野敬造、上田大介、小山貴之、佐藤清隆、原 修
監事	薄井哲哉、山田和彦、中島貞夫

災害時救急透析対策委員会は、委員長相澤孝夫、副委員長笠原寛以下、北信・中信、南信、東信の各エリアより2名ずつ選出された8名の委員により構成されている。この委員会での討議の結果、災害時情報ネットワークシステムは、相澤病院内に設置された長野県透析医会サーバーに長野県透析医会災害時情報伝達・集計用ページを、みはま病院の武田さんの支援を頂いて立ち上げて構築することとした。広大な長野県の面積を考えて、まずは県内のネットワークを充実させようとする考えであった。このことにより平成13年より災害時における情報の伝達・集計が長野県独自でも可能となった。

情報収集の方法としては、各透析施設よりインターネットを介して情報を入力画面に直接入力していただくか、FAXを用いて情報を事務局のある相澤病院まで送っていただき、事務局がその情報の入力を行うかの二通りの方法をとることとした。またメールを用いての情報伝達の効率化を目指してメーリングリストの登録を行った。これには20医療機関が参加し、平成14年9月3日にはメーリングテストを実施した。

長野県の災害時情報伝達訓練の第1回は、インターネットを介した情報伝達のみ限定し、長野県透析医会災害時情報伝達・集計用ページを使用して平成15年9月2日に特に災害状況の設定もせず自由に行った。参加施設数は11施設であり、各エリアの参加施

設は北信2、中信4、南信4、東信1であった。第2回の訓練は平成16年9月2日に「牛伏寺断層を震源とするマグニチュード8.0の直下型地震が発生、各地の震度は長野市6弱、松本市7、諏訪市7、飯田市5弱、佐久市6弱」と想定し、各施設の被害状況をインターネットで直接書き込むかまたはFAXにて事務局へ送信していただくこととして行った。参加施設は27施設であり、直接入力12施設、FAX送信は15施設であり、各エリアの参加施設は北信6、中信9、南信7、東信5であった。実施後の意見として、「災害時にインターネットやFAXが使用できるとは考えにくいので、無線による情報伝達を考えるべきではないか」などがあり、今後自治体との相談も含め、委員会で検討していくこととなった。

おわりに

昭和55年から本格的活動を始めた長野県透析医会も先達のご尽力の結果、特に前会長土屋隆のときには組織としての形態と機能が整えられて組織が強化され、特に透析診療の面においては存分に力を発揮してきた。これからはこれを継続維持するだけでなく、さらなる発展に向けて委員会活動を中心として会員の皆さんと努力を積み重ねていくつもりであるので、諸兄のご指導をよろしく願いたい。